



道を歩む

十字架と復活に向かう非暴力のイエスに従って

ジョン・ディア [著] / 志村真 [訳]

◆四六判・216頁・定価2200円

現代におけるレント（受難週）の黙想に最適の書

1月23日発売

ローマ帝国が十字架でイエスを殺し、現代の帝国がドローンで市民を殺す……。だがイエスは、〈十字架の政治学〉に〈復活の政治学〉で対抗し、新しい命をもたらした。福音書の受難物語を丹念に読み解き、イエスの〈道〉が私たちの心を武装解除させ、非暴力の民へと私たちを作り上げ、戦争の文化を非暴力の文化に変革できることを力強く示す。



ジョン・ディア（John Dear）神父

1959年生まれ。アメリカの平和活動家・思想家。デューク大学卒業と共にイエズス会に入会、93年司祭叙階。アメリカ友和会幹事や、ホームレスのためのシェルター、スーパークitchen、コミュニティセンターなどで働き、また世界各地の紛争地域を旅する。市民的不服従による逮捕歴は80回以上。

訳者：志村真（しむら・まこと）

1957年生まれ。東京神学大学博士課程前期課程修了。中部学院大学・同短期大学部教員、飯塚教会・直方教会牧師などを歴任、現在田川教会代務者。著書に『平和をめざす共生神学』。

▼ジョン・ディア神父の既刊書（いずれも志村真訳）

剣を収めよ 創造的非暴力と福音

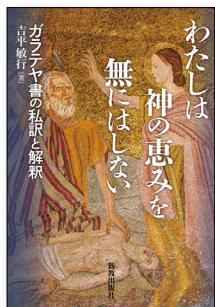
キング牧師、ヘンリ・ナウエン、ジョーン・バエズ、ティク・ナット・ハーン、ゾフィー・シオルと白バラ、トマス・マートン……。暴力の溢れる世界のただ中でイエスに従おうとした多数の福音の証人たちの生き方に学び、創意に満ちた非暴力の可能性を追求する。

◆四六判・178頁・定価1980円

山上の説教を生きる 八福の教えと平和創造

「心の貧しい人々は幸いである」で始まる八福の教え。この「幸いだ」という祝福を平和創造へと「立ち上がりて前進せよ！」という呼びかけに大胆に読み替える。

◆四六判・216頁・定価2090円



わたしは神の恵みを 無にはしない

1月23日発売

ガラテヤ書の私訳と解釈

吉平敏行 [著]

◆ 四六判・180頁・定価1760円

信仰義認とは何か？

「救われた」とは何を意味するのか？

NPP（パウロへの新しい視点）を中心とする近年のパウロ研究と批判的に対話しつつ、丁寧な釈義を積み重ねることによって、パウロの宣教の核心である信仰義認の本質に迫る。「わたしたちは、パウロが語る信仰の義に耳を傾けねばなりません。……その地の低きにまで降られた神の子イエスの出現に驚き、信仰による義を再認識したユダヤ人、ファリサイ派パウロの福音の理解に注目したいと思います。」（本書より）

著者よしひら・としゆき 日本キリスト教会香里園教会牧師。1956年長野県に生まれる。東京大学農学部を卒業、一般企業に就職するが神経症を患い、教会に導かれ受洗。聖書神学舎、関西聖書神学校研究科を経て日本イエス・キリスト教団正教師。Gordon-Conwell 神学校に留学（Th.M.）。2012年日本キリスト教会雲雀ヶ丘伝道所牧師、20年神戸布引教会牧師、24年4月から現職。著書に『ガラヤの友へ』（淡青舎）。

最近の重版から

悪魔の手紙

C. S. ルイス著／森安綾・蜂谷昭雄訳 C.S. ルイス宗教著作集 1

◆定価 2640 円

ロゴセラピーと物語 フランクルが教える〈意味の人間学〉

勝田茅生著 NHK「こころの時代」講師

◆定価 1760 円

ロゴセラピーのエッセンス 18の基本概念

V・フランクル著／赤坂桃子訳

◆定価 2090 円

吉田 新著

聖書翻訳と宣教

日本語訳聖書
関連資料の研究

日本語訳聖書は口語体から文語体、そして再び口語体へと変化していった。それは聖書を幅広く効率的に普及させるために、時代の要請に応じて相応しい文体を追求したからである。本書はこの文体の変遷に注目し、膨大な資料に基づいて、狭義の言語論を超えて宣教論の観点から新たな翻訳論を切り拓こうとする。

A5判・予価7590円

ミロ斯拉フ・ヴォルフ著／彦田理矢子訳

排斥と抱擁

アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

異質な者を憎悪し、殺し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な内戦を経験したクロアチア出身の著者は、この問題を探求した本書（1996年）を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。『クリスチャニティトゥデー』誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。

A5判・予価7700円

ヴォルフハルト・パネンベルク著／佐々木勝彦訳

組織神学 第二巻

邦訳全三巻がついに完結。この第二巻では、創造論、終末論、人間学、キリスト論、和解論が独特無比な仕方で開催され、20世紀の後半における最大の組織神学的収獲であるパネンベルクの体系の、中核と全貌がここに明らかとなる。

A5判・予価9000円

● 12 月に出た本と雑誌

新しいパウロ

N・T・ライト著／前川裕訳



パウロは、ユダヤ教の唯一神信仰、選民思想、終末論をどう再定義したのか。その真の新しいとは何だったのか。ローマ帝国という政治的背景をも視野に入れながらパウロの福音理解を新鮮な目で読み直し、彼が宣教した創造と契約と終末、そして神とその民の壮大なストーリーを蘇らせる。

◆四六判・定価2970円

福音と世界

1月号 特集Ⅱキリスト教保守とは何か

—その歴史と動向—

◆定価660円

特集寄稿…木村智、佐藤清子、藤野雄大、岡谷和作、

原田健二朗、吉田新

展望 変わる新約文書の順番（辻学）

書評 ユンゲル『世界の秘密としての神』（上原潔）

連載 富田正樹、今高義也、長尾優、戒能信生、福岡揚、陶

山義雄、田島卓、山崎ランサム和彦

販売部から

読書家の友人がいます。読んだ本の画像とコメントが時々ラインで届きます。「この本を読んで涙した」というコメントが届いたので、何に涙したのか知りたくて私も読んでみましたが、その場面は私にはぴんときませんでした。でも読書人口が減少している昨今、このような友人の存在は嬉しいものです。キリスト者ではありませんが聖書関係にも関心があります。時々対面でも会って読書談義をしています。読むのが速く理解力が深いのには感嘆します。「ボンヘッファーが『共に生きる生活』で、教会のクリスチャン同士は仲良しクラブではあってはならないと言っているのは真理だと思いました」——これは、映画「ボンヘッファー ヒトラーを暗殺しようとした牧師」を観たあとと『共に生きる生活』を読んだ感想です。また、「『神学部とは何か』（佐藤優著）の中で、佐藤さんが、虚学が実学を支えていると述べているのに納得しました」とか、「C・S・ルイスは『悪魔の手紙』で、各章ごとレトリックを駆使して二項対立を分かりやすい話にして、神の真理を説明していますね」とも。いずれも小社の本を読んだ時のコメントです。まだキリスト教の理解は深くありませんが、もった小社の本を読んでほしいと思い、あれこれ情報を提供しています。こんな友人に刺激されて、私も書棚に眠っている幾冊かの本をせつせと読み始めたこの頃です。（金沢）

■立ち読みコーナー■（近刊書からときどきご紹介します）

イエスは今日も従う者を探し求めておられます。今なお、行動的非暴力の世界大のキャンペーンを建設しておられます。今なお、一人残らず武装を解き、すべての人を癒し、帝国と戦争に対決し、神の非暴力の国を迎え入れるために、この世界を変容させようとしておられるのです。私たちの周辺と世界全体に広がってしまった暴力を思うとき、イエスの創造的非暴力の運動はかつてないほど必要であると言えるでしょう。それは今日、キリスト教的信徒の最も重要な構成要件であり、おそらくは最も拒否されているものではないでしょうか。

ジョン・ディア著『道を歩む』（1月23日刊）より

福音と世界

2026年
2

特集・裁き

人による人への裁きから離れて

〈裁き〉を解放するために

—— 応報と統治に抗う解放の神学——有住 航

裁きをクイアする——「私たち」や「私自身」の境界を問いながら——安田真由子

新自由主義的メトリクラシーと人間の裁き／審査／査定——河野真太郎

哲学フラクティスにおけるアナキー——堀越耀介

私は誰をも裁かない——ジョルジョ・アカンベン『レイトとイエス』における裁きと救済

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟

裁きの都市、都市の使用——彫 真悟